





空蟬 并一

此巻ハ源氏十六卷の葎乃りあり以茲為巻名ト

空蟬の巻は越えてぞうまのりなる人ぞうれりしとされ
并の海の花横とぞうまのりなる松の物語乃とぞ一但
此物語みくぞうりて豎乃并あり。此物語ハ并一ト云のあり。二
ハ豎二冊ハ横三ト横豎と云ね。三ハ豎トハ横卷の敷なり。四
巻ハ帯本の末乃とすとすつあより横横トハ蓬生の巻の敷なり。
とつし乃初の時ハゆとすとす。是ハつし乃の光
よまへとつし乃のぞとつし乃ハ別ト二巻と云。也横豎と云ね
とらハ末摘花の巻乃敷也。とつし乃ハ若紫より前乃あり。末よ
ハ若紫より後乃あり。並のハ史記の本記乃外ト列傳と
とつし乃ハ云々

花 帯木卷 此の何はは

あて

細 中河のやりにとる

わくのゆかり

それハ人ト

細源氏の好色と自稱

なり 兼源氏の君のそれ

つとる人ト云へる

の自稱ハあつ小君を

とつし乃の料也

よう

細小君あり

さがるのあり

通

あつ

師統

い

あ

と

う

此の

前

袖れぬとぬあにむれど今にふれて

とるぬとぬとひなとドウと

世成むひちりぬれど

あつとぬとぬとひなと

とぬとぬとひなと

さがるのほそくちの

か

ひたり

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

しつは入 纏也

女もかゝりくちりして
箋 普通の人もあつた
人となしをことと空蝶乃

木下一らり

細空蝶もかゝりて音
信もかゝりてとこれなり

早ゆ

細くて結果るんとそ
を又信も思ひまされ

ふれくも

孟 慨哉 惘哉 以上日本

孟 將計 方便

係氏内の主人とてはなるべし
かゝりてはなるべし

細空蝶のちかき思ふ

こもぬしては

もやがくつとぬけては

らまのしちかき思ふ

らんをうそあつて

ひとあつたのうそ

空蝶のつとがこと

ひまどうなうそ

まいてこゝろ

ゆにぢあつて

がはぢあつて

いんまぶくもぢあつて

まづ

あつて

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

まづ

しつは入 纏也

女もかゝりくちりして
箋 普通の人もあつた
人となしをことと空蝶乃

木下一らり

細空蝶もかゝりて音
信もかゝりてとこれなり

早ゆ

細くて結果るんとそ
を又信も思ひまされ

ふれくも

孟 慨哉 惘哉 以上日本

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

孟 將計 方便

こころあはれハかりし

細小君入るはとまはる
ハかり人もしそんじき
へさ地とて女房をのま

のの侍方の
細小君乃むむめめ
の萩かり空帳のまう子
このあ乃あのこまあ

其春うせうの
孟博物志云竟造團茶
あはゆは 細唯今係し
つの方よりむむらむ

てあ乃あ入るはかり
まやの中柱 なるくわ
一のきに若あ

こころあやの
花女房の装束は月日
よりひとくさねとさ
かりひとくさねとさ

くさねとさねとさねとさ
さねとさねとさねとさ
さねとさねとさねとさ
さねとさねとさねとさ

なりこころあはれ
なれりこころあはれ
なれりこころあはれ
なれりこころあはれ

つれづれ 保氏と 小君
のまはるはかりし

づらあはれかりし
よのまはるはかりし
あのはれはかりし

ぬとつれづれはかりし
てやあはれかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし
あはれはかりし

今ひかりハ 細小君の萩

よのまはるはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

あはれはかりし
あはれはかりし

義孝は...
目少く...
...
細君...
...

細君...
...
...

細君...
...
...

細君...
...
...

細君...
...
...

細君...
...
...

日本紀 垣間見 万 関

小君...
...
...

小君...
...
...

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

文目しれぬ人
りれそとて

ほふと空條のこえり
細原の若き若きと
と向はる

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

このよひに 細小君うへへ
孟こころをばさしけり

今度 日本紀

すろ 花丸の昔男女の通稱
也よめれけり

凡吹とあせ 引き

凡吹とあせ 引き
はふけり人かひひて

かろく 一 次の相まへり
かろく 一 次の相まへり

孟前よ小君はなれ妻とて
ゆい 童をばさしけり

ゆい 童をばさしけり
細いよとあつちとて

とあせとあせ 引き
孟退せ 退散とて

細小君と女房をのこ
とあせとあせ 引き

らんよめり
ほふと空條のこえり

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

こころをばさしけりや
田のあひのぬきとて

あまのこころ

細保の音勢と我力やも

せぬしかり 孟人をも

ふまぬ事なれはさふま

こころありあつた

保の疾入ありせしる相

なり 暮 孟人より

のとゆいぬねはさふま

くものこころの

ふまぬ事なれはさふま

細保の音勢と我力やも

せぬしかり 孟人をも

ふまぬ事なれはさふま

こころありあつた

保の疾入ありせしる相

なり 暮 孟人より

のとゆいぬねはさふま

くものこころの

ふまぬ事なれはさふま

細保の音勢と我力やも

せぬしかり 孟人をも

ふまぬ事なれはさふま

こころありあつた

保の疾入ありせしる相

なり 暮 孟人より

のとゆいぬねはさふま

くものこころの

ふまぬ事なれはさふま

細保の音勢と我力やも

せぬしかり 孟人をも

ふまぬ事なれはさふま

こころありあつた

保の疾入ありせしる相

なり 暮 孟人より

のとゆいぬねはさふま

くものこころの

ふまぬ事なれはさふま

細保の音勢と我力やも

せぬしかり 孟人をも

ふまぬ事なれはさふま

こころありあつた

保の疾入ありせしる相

なり 暮 孟人より

のとゆいぬねはさふま

かたがわらわらけりいひをわねるれば

ふまぬ事なれはさふま

こころありあつた

保の疾入ありせしる相

なり 暮 孟人より

のとゆいぬねはさふま

くものこころの

ふまぬ事なれはさふま

細保の音勢と我力やも

せぬしかり 孟人をも

ふまぬ事なれはさふま

こころありあつた

保の疾入ありせしる相

なり 暮 孟人より

のとゆいぬねはさふま

くものこころの

ふまぬ事なれはさふま

細保の音勢と我力やも

せぬしかり 孟人をも

ふまぬ事なれはさふま

こころありあつた

保の疾入ありせしる相

なり 暮 孟人より

のとゆいぬねはさふま

くものこころの

細空様のついでとて小君小若
と今い表とあひまのう
まはくうこの流と 夫実よは
おののわすれとま
くくこのうふくし

細空様の身とてけり
又万葉集一冊大冠三山の奇
は虚蟬七婦子相格良思
計とわつたあめあふの
けつりうさあふくの時
おのりいさふさくく
ひさく孟文選蟬蛻と書
かりあめさくく
よーきんてさり花帳の
もあふさくさくさく
くくさくさくさく

くくくは源氏の扶よはゆえ
ゆいゆいとさくさく
又小君とんをわすれ
くくくくくくく
細空様の心まわらぬ
らむとては源氏の
て小君とんをわすれ
くくくくくくく
ひさくみよは 源氏の所懐の
ねさくさくさくさく
のくくくくくく
いせよのあまの 河をくく
とのゆきまて夜さく
とんやさくさくさく
ちかちかちかちか
さくさくさくさく
あふさくさくさく
是れのとてさくさく
いつらさくさくさく
くくくくく

ついでとて小君小若
と今い表とあひまのう
まはくうこの流と 夫実よは
おののわすれとま
くくこのうふくし

ついでとて小君小若
と今い表とあひまのう
まはくうこの流と 夫実よは
おののわすれとま
くくこのうふくし

ついでとて小君小若
と今い表とあひまのう
まはくうこの流と 夫実よは
おののわすれとま
くくこのうふくし

又うら人もうさるるれは
孟花より又うら人もうさるるれ
後世とあるにこりしはうら
不引、不れ

二考のこりありらよ
細砂の萩のくは小君して保
の音信多ふこ中びりかて路
ひーこもかこと思ん

ありーあうの 細うらうも
わのあうやせの中とさうさう
の縁方とさうん空隊のんれ中
始終はすのんわりんれんれ
はわりんんえこりきさふ
まうさうまうのあてあふん
くはと思ん貞節のんれは
てあうされぬあのみさう

うら隊のねよとくあ
箋此奇全篇伊勢集よあり
切て河海一極こ見とさうら
是ハ空隊の賜答ふわは伊勢
集の古奇とくは時ハ相應
一これいれううみれん
一書こふりく裏に保とあ
一伊勢ハ本忍て後よわさ
わさてぬとさうらとい空隊のんれはわらぬのくれてまなもぬとわくれてとさうさう
それわう一人をれを神わくはとさう

知らてはわらりまひよさうりま
しこれんをれはさうらわてわらりこ考の

しりありんふつあてもむねのこりさうれど
はさうそこのは あはれ萩のんときさうのほよこ

くさざれさうわらよおまやうん 保のまゆと空隊のあうらう

おまをさうま 保のまゆと空隊のあうらう

くさうのさうねどあひさうれはさう
さうさうさうさう

のびくよわら神れ

